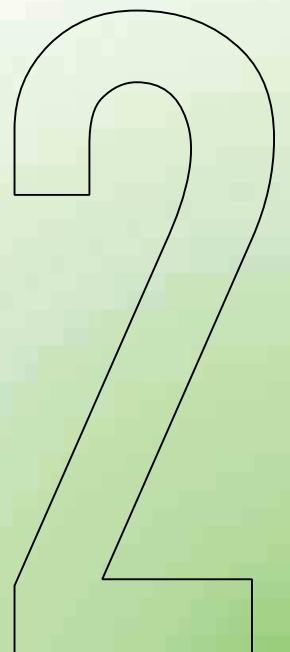


# 第2章 現状と動向

---

本章では、マスタープランにおいて、都市づくりの基本方針などを定めるにあたり、都市の現状と動向を整理します。

- 1 岡山市の特性と成り立ち
- 2 現状



# 1 岡山市の特性と成り立ち

## (1) 位置

“中四国の広域交通のクロスポイント”

○本市は、山陽自動車道、山陽新幹線、瀬戸大橋、岡山港・新岡山港、岡山桃太郎空港など陸・海・空の交通結節点に位置し、中四国地方の広域交通のクロスポイントとなっています。

■位置図

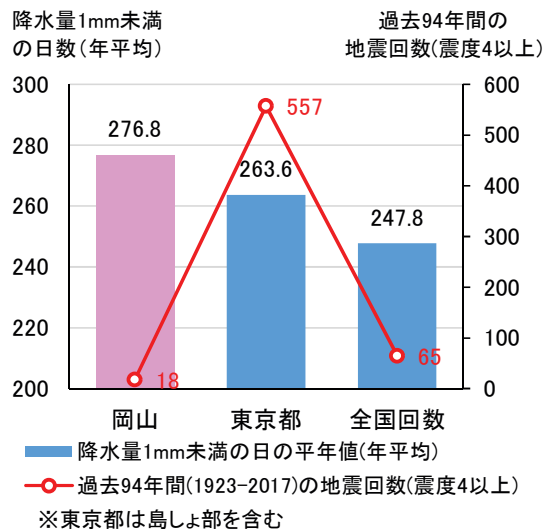


## (2) 地勢

“温暖で地震が少なく、充実した都市機能”

○岡山県は、統計上、平均して4日のうち3日は降水量が1mm未満の日であるとともに、温暖な気候であり、また、過去94年間の地震の回数が全国平均と比べて少ない都市です。  
○本市は、大都市と比較しても、各種の都市機能が充実しており、暮らしやすい都市です。

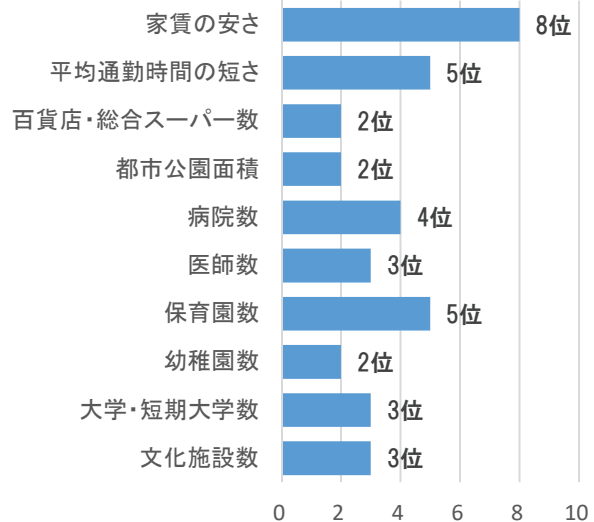
■降水量1mm未満日数と地震回数



資料：101指標から見た岡山県  
※東京都は、島しょ部を含む

■岡山市の都市機能(大都市中の順位)

(大都市：東京都区部+政令指定都市)



資料：各省庁の統計より集計  
※施設数は、人口あたり

“恵まれた自然環境と質の高い都市機能の集積”

- 本市の地形は、北部の丘陵地帯、旭川・吉井川の河口に広がる岡山平野、児島半島を含む南部の瀬戸内海沿岸地帯から構成され、水と緑に恵まれた自然の豊かな都市です。
- 岡山平野の中心部にある岡山駅を中心とする市街地は、高次な都市機能を有し、岡山城・岡山後楽園などの歴史・観光施設等が充実しています。

1 はじめに

2 現状と動向

3 都市づくりの課題

4 都市づくりの基本方針

5 分野別の基本方針

6 計画の実現に向けて

参考資料

■岡山市の地形



資料：国土交通省「5万分の1土地分類基本調査」より作成

■岡山市の都心



### (3) 成り立ち

#### “固有の歴史、伝統、文化、景観”

○本市は、豊かな自然を背景に、古くは高い製鉄技術を持ち、古代吉備の国の時代から稲作を盛んに行うなど、大和に匹敵する勢力を持ち繁栄してきました。その後、戦国時代の岡山城築城や、江戸時代には池田藩の城下町として整備が進みました。この頃から岡山平野の南部では、児島湾の干拓・新田開発や百間川の築造など、先駆的な都市の基盤づくりが進められ、これらの大規模な干拓事業の結果、一大穀倉地帯が形成されました。この田園の豊かさは、現在でも本市の特色となっています。

造山古墳



田園風景（灘崎）



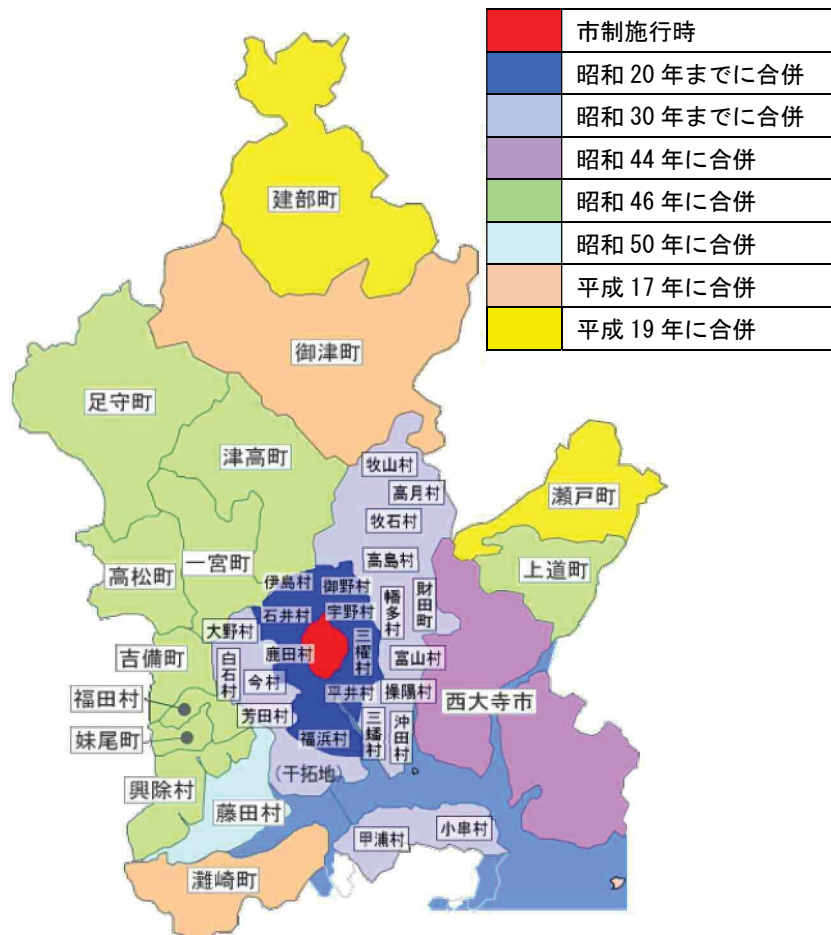
岡山城



#### “合併による市域の拡大”

○本市は、明治 22 年（1889 年）の市制施行当時は、面積約 6 km<sup>2</sup>の規模でしたが、昭和、平成の市町村合併により市域は約 130 倍の約 790 km<sup>2</sup>に拡大し、平成 21 年（2009 年）4 月には政令指定都市へ移行しています。

■ 岡山市の市域変遷図

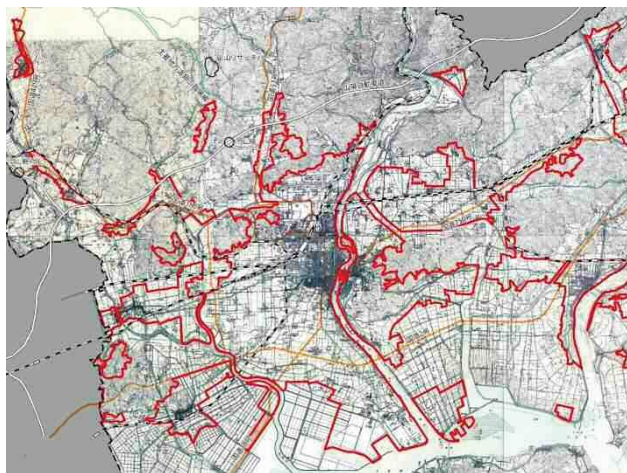


## “モータリゼーションの進展と市街地の拡大”

- 昭和20年頃は、岡山駅や西大寺駅などの鉄道駅を中心にコンパクトな市街地が形成されていましたが、人口増加と高度経済成長を背景に、昭和40年頃からモータリゼーションが進展し、市街地の外延化が進みました。
- 昭和46年には、無秩序な市街地の拡大を防止するため、都市計画法による区域区分（線引き）を決定し、現在に至るまで、交通網の整備等と併せて計画的な市街地の形成が進められてきました。

### ■市街地の変遷

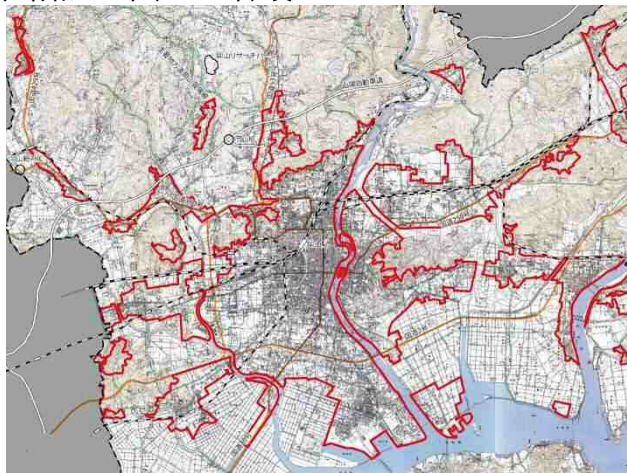
#### ◇昭和20年代後半



#### S20年頃 人口約37万人

- S20 岡山空襲
- S21 復興土地区画整理事業の決定
- S22～第一次ベビーブーム
- S30～高度経済成長
- S37 岡山国体、西大寺駅・大多羅駅開業
- S40～本格的なモータリゼーションの到来
- S41 国道2号BPの決定
- S45 岡山県南広域都市計画区域の決定
- S46～第二次ベビーブーム
- S46 区域区分（線引き）の決定
- S47 山陽新幹線（新大阪～岡山間）開業

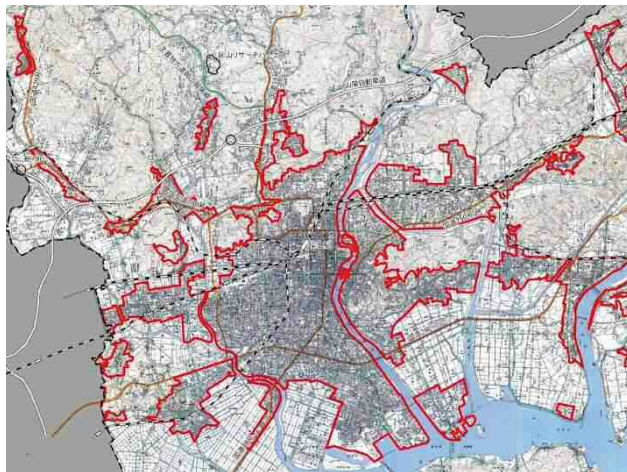
#### ◇昭和50年(1975年)頃



#### S50年頃 人口約56万人

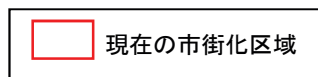
- S50 山陽新幹線（岡山～博多間）開業
- S60 高島駅開業
- S61 上道駅開業
- S63 岡山空港開業、瀬戸大橋開通
- H5 山陽自動車道岡山IC開通
- H8 中核市へ移行
- H11 国道2号BP全線開通
- H14 宇野線連続立体交差事業完了
- H17 北長瀬駅開業
- H19 岡山駅東西連絡通路開通

#### ◇平成20年(2008年)頃



#### H20年頃 人口約70万人

- H20 西川原駅開業
- H21 <政令指定都市へ移行>



資料：国土地理院「旧版地図」、総務省「国勢調査」  
※人口は、現在の市域で集計

1 はじめに

2 現状と動向

3 都市づくりの課題

4 都市づくりの基本方針

5 分野別の基本方針

6 計画の実現に向けて

参考資料

## 2 現状

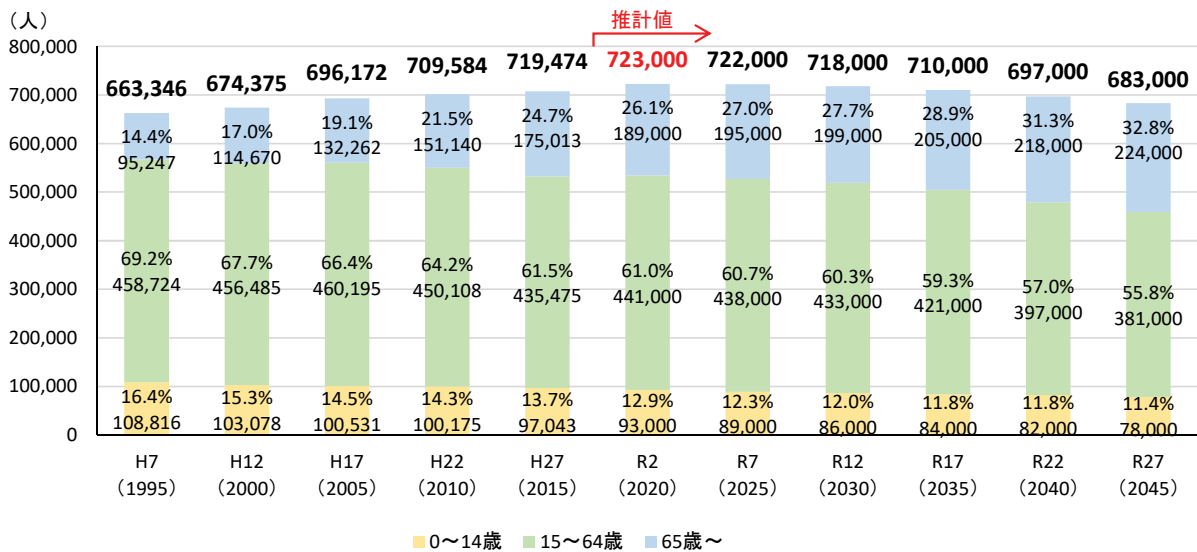
### (1) 人口・世帯

#### 1) 総人口・年齢区分別人口

“少子高齢化が進行、令和2年（2020年）をピークに人口減少”

- 本市の人口は、これまで順調に増加してきましたが、令和2年頃をピークに減少に転じ、25年後の令和27年（2045年）には、4万人減の約68万人になると推計されています。
- 平成7～27年の20年間で、高齢者の大幅な増加、年少人口の減少が進んでおり、この状況がさらに進展し、令和27年には3人に1人が高齢者になると見込まれています。
- 近年の人口動態は、平成29年には日本人の人口が減少する一方で、外国人人口は増加傾向となっています。

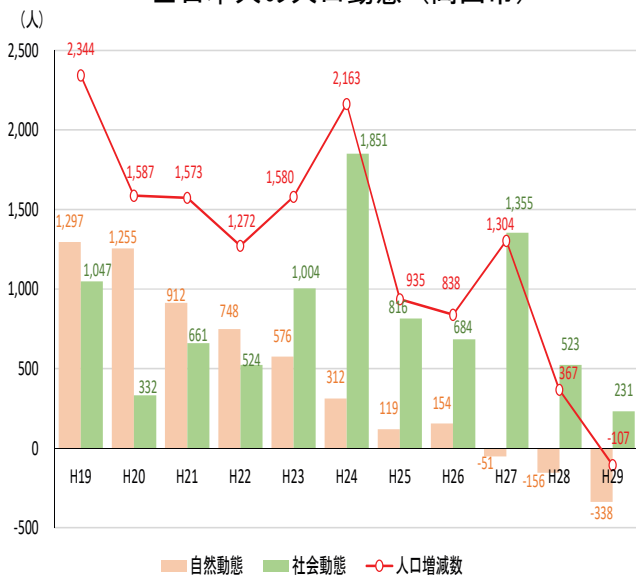
■人口推移と将来人口の見通し（岡山市）



資料：総務省「国勢調査」。R2以降は、第六次総合計画の推計値(H27国勢調査を基にした推計)。

※現在の市域で集計 ※総人口は、年齢不詳を含む。但し、人口比率は年齢「不詳」を除いて算出。

■日本人の人口動態（岡山市）



資料：岡山県毎月流動人口調査（年報）

※前年10月1日～9月30日

■外国人の人口推移（岡山市）



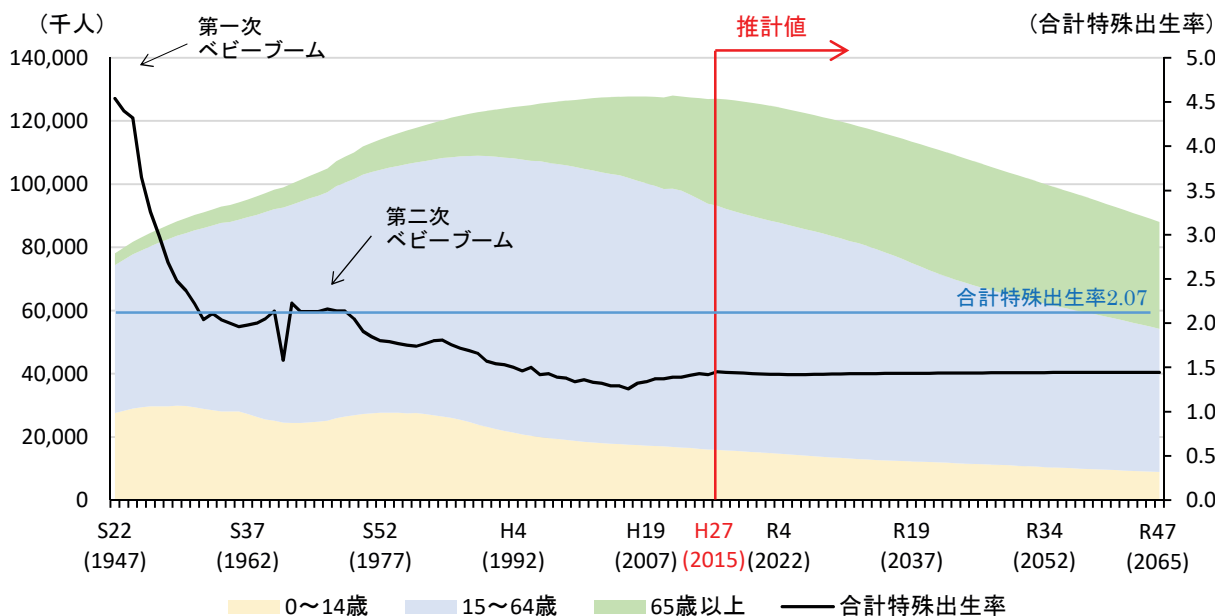
資料：住民基本台帳（各年末時点）

※H19からH23までは外国人登録者数

“我が国の合計特殊出生率は減少、人口の維持が困難な状況”

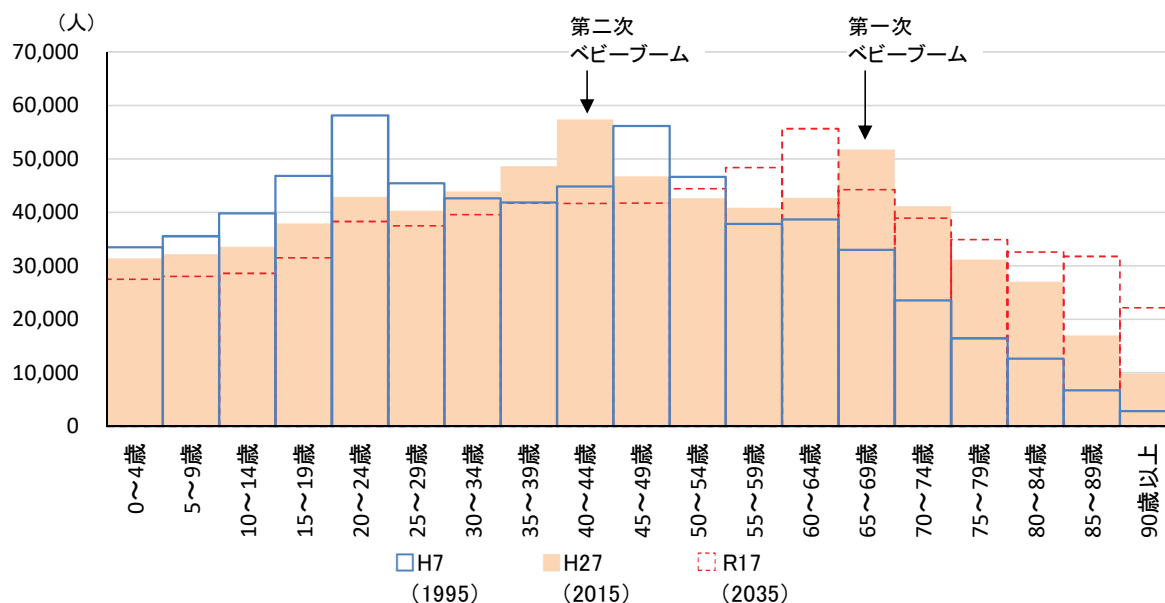
- 日本の合計特殊出生率は、近年は若干増加ですが長期的には減少傾向であり、人口を維持できる合計特殊出生率2.07を大きく下回っています。
- 今後、出生率が回復しても、親となる世代の人口が減少しつつあり、一定の人口減少は避けられない状況です。

■日本の人口推移・合計特殊出生率



資料：実績値は総務省「国勢調査」、厚生労働省「人口動態統計」。推計値は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（H29推計）」の中位推計。

■岡山市の年齢区分別人口の推移



資料：総務省「国勢調査」。R17は、岡山市推計。 ※現在の市域で集計

1 はじめに

2 現状と動向

3 都市づくりの課題

4 都市づくりの基本方針

5 分野別の基本方針

6 計画の実現に向けて

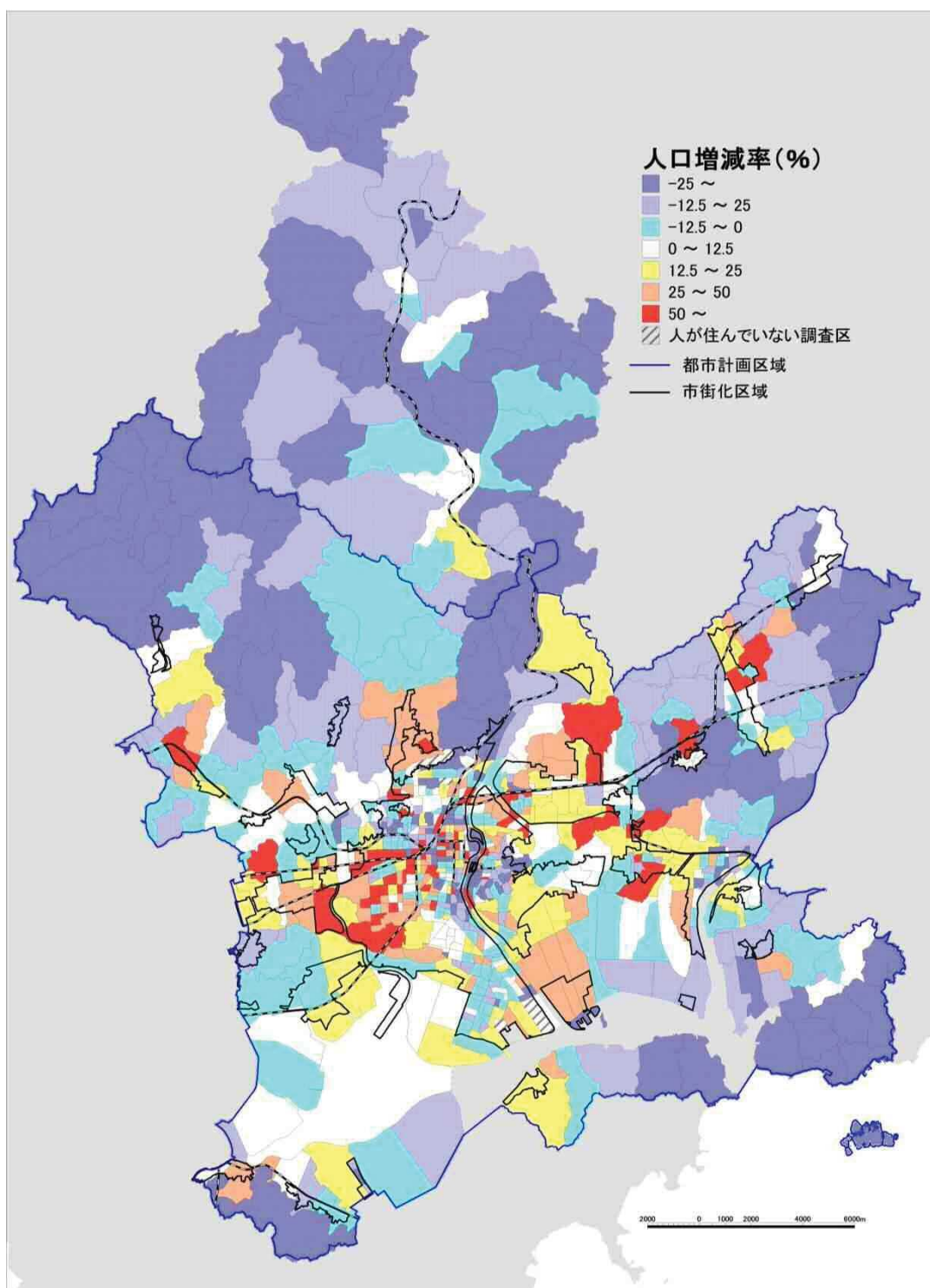
参考資料

## 2) 人口動向

“中山間地域で急激な人口減少、周辺地域で人口増加”

- 中山間地域などでは、人口減少が著しく、市街化区域の縁辺部でスプロール的に人口が増えています。
- 市街化区域内でも、古くから街が形成された地区などでは人口が減少している一方で、都市計画区域外でも交通利便の高い地域などでは、人口が増加している地区もあります。

■町別人口増減率（平成7年～平成27年）

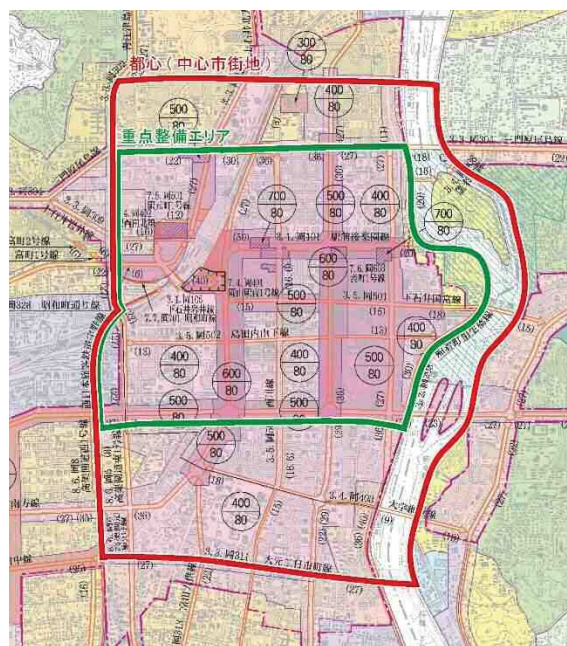
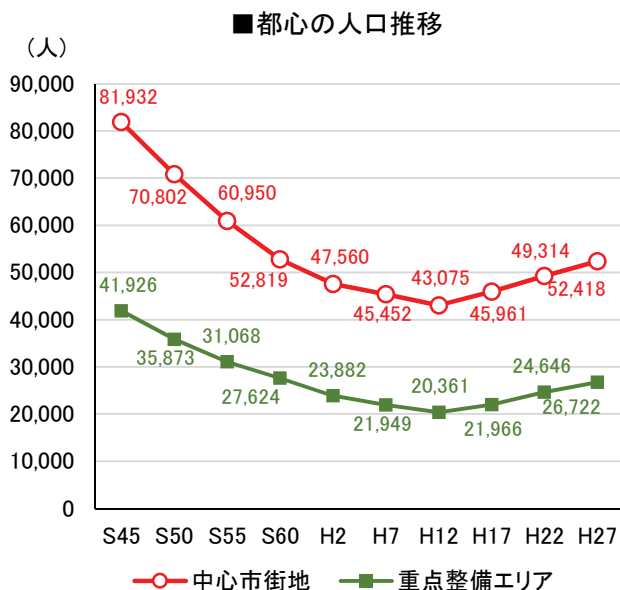


資料：総務省「国勢調査」



“都心では人口が減少、近年は回復基調”

○都心（中心市街地）の人口は、平成12年までは減少していましたが、活発な市街地再生の動きもあり、近年は増加傾向です。



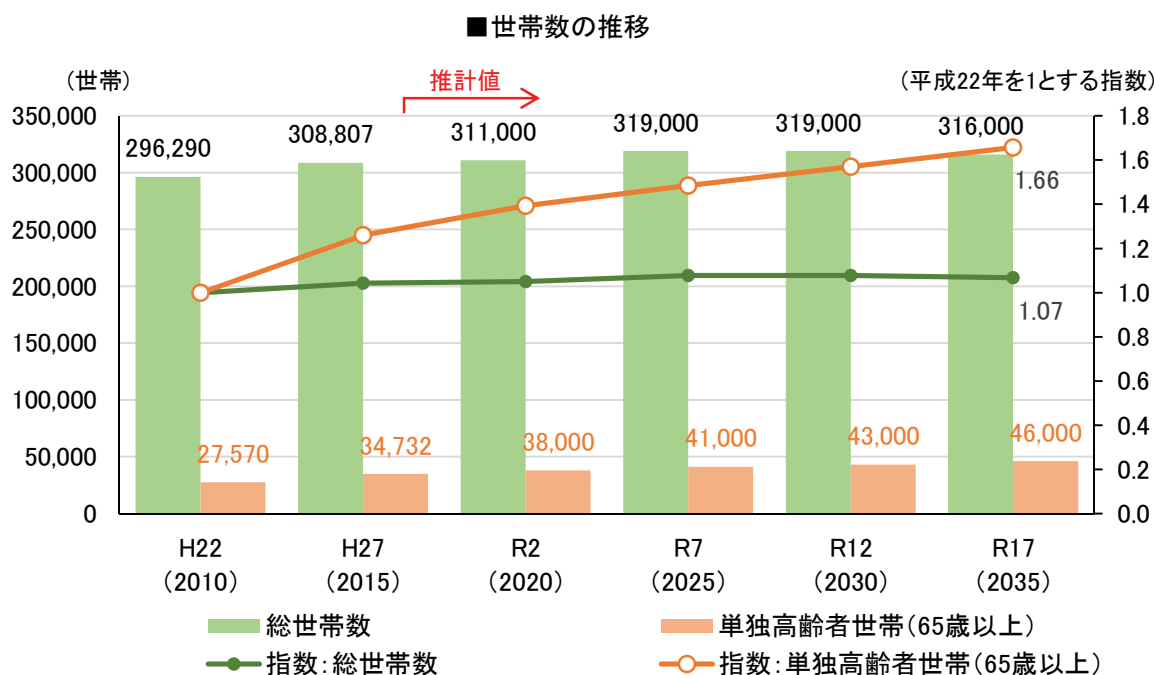
資料：総務省「国勢調査」

3) 世帯

“世帯数のピークは令和7～12年（2025～2030年）、単独高齢者世帯数が増加”

○本市の世帯数のピークは令和7～12年と見込まれており、その後は減少に転じる見通しです。

○世帯主が65歳以上の単独の高齢者世帯が著しく増加する見通しです。



資料：総務省「国勢調査」。R2以降は、岡山市推計。

1 はじめに

2 現状と動向

3 都市づくりの課題

4 都市づくりの基本方針

5 分野別の基本方針

6 計画の実現に向けて

参考資料

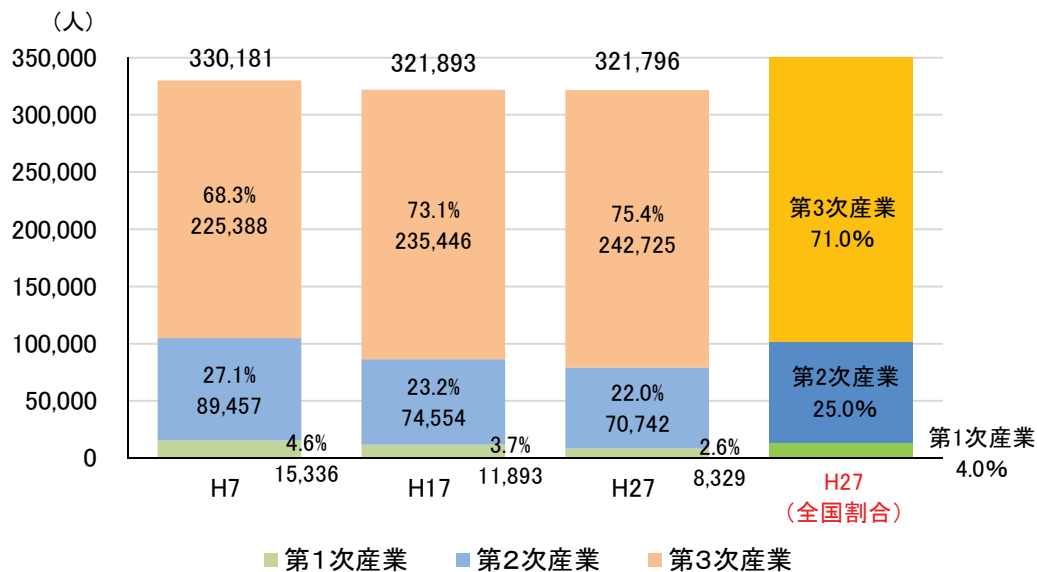
## (2) 産業

### 1) 特性

#### “第3次産業を中心とした産業特性”

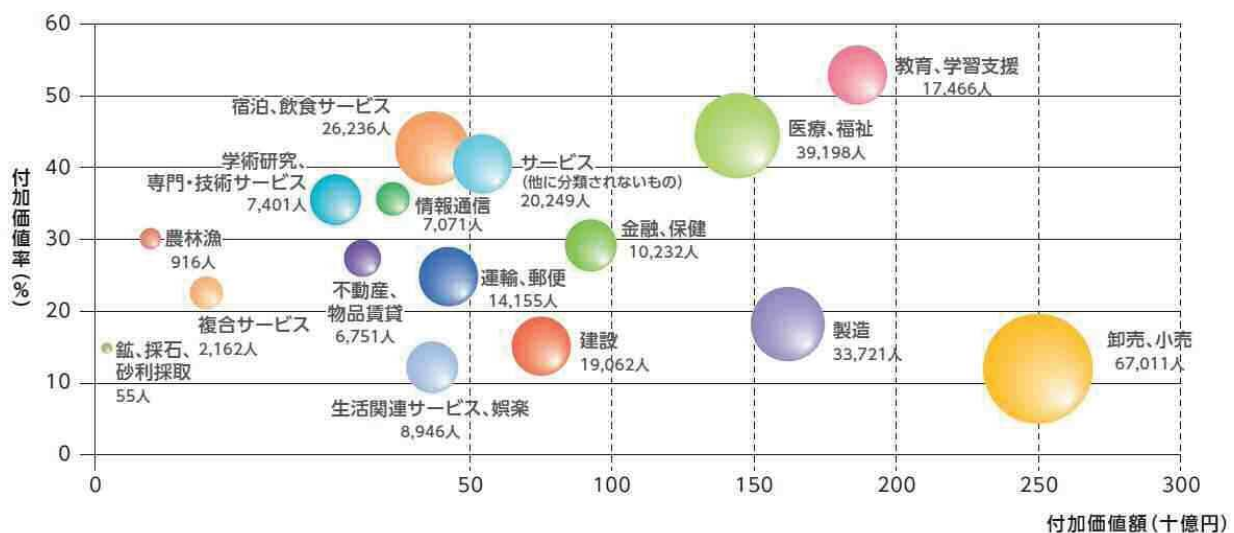
- 本市の就業者は、第3次産業が中心であり、第1次産業及び第2次産業の就業者数は減少傾向です。
- 交通のクロスポイントの優位性を活かした卸売・小売業や製造業のほか、医療、福祉、教育等が優位な産業特性です。

■産業別就業者数



資料：総務省「国勢調査」 ※15歳以上就業者数

■岡山市産業(企業ベース)の稼ぐ力と雇う力



資料：総務省・経済産業省「H24 経済センサス活動調査」

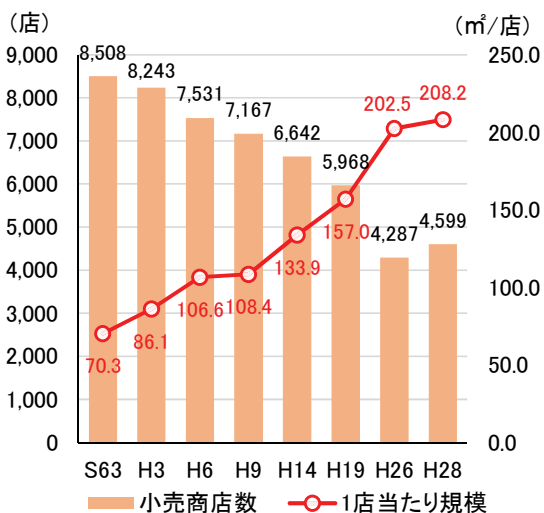
## 2) 商業

### “小売店舗の郊外化・大型化、商店街の歩行者数の減少”

○小売商店数は約30年間で、約半数に減少している一方、郊外での立地などにより、1店当たりの売場面積は、大型化しています。

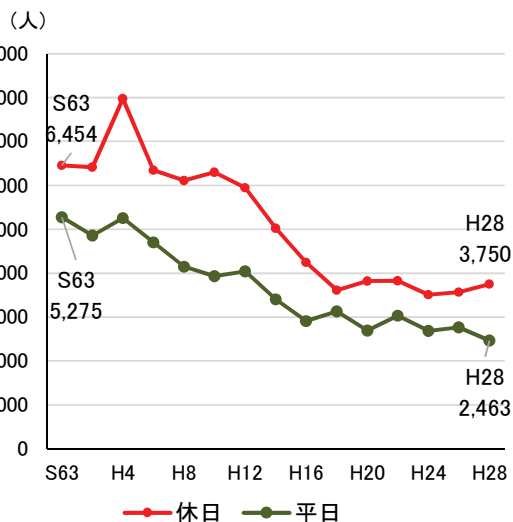
○都心の3商店街(表町・駅前町・奉還町)の歩行者数は、約30年間で半減しています。

■小売業商店数と売場面積



資料：経済産業省「商業統計調査」

■都心の3商店街の歩行者交通量



資料：岡山市商店街通行量調査

※表町・駅前・奉還町商店街で全期間調査地点の平均

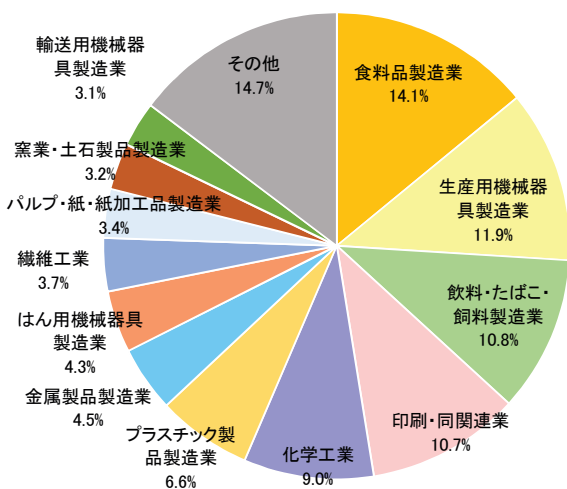
## 3) 工業

### “製造品出荷額等は微増傾向”

○本市の製造業は、食品や生産用機械器具製造業、飲料、印刷業等が中心となっています。

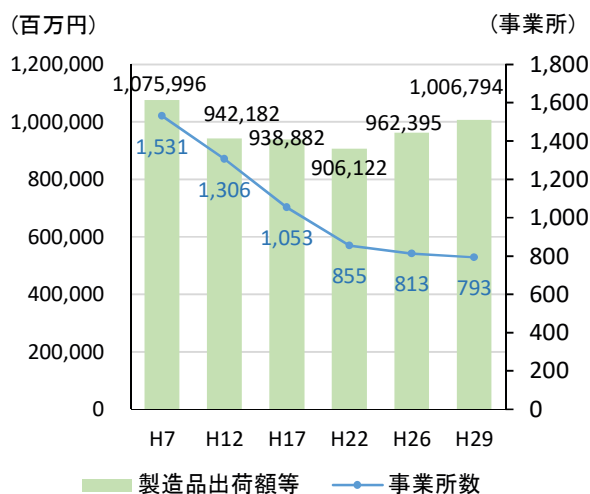
○従業者4人以上の事業所数は減少傾向ですが、製造品出荷額等は増加傾向であり、事業所の効率化が進んでいます。

■主要産業別製造品出荷額等の割合



資料：経済産業省「H29工業統計調査」

■製造品出荷額等



資料：経済産業省「工業統計調査」

※従業者4人以上の事業所を対象

1 はじめに

2 現状と動向

3 都市づくりの課題

4 都市づくりの基本方針

5 分野別の基本方針

6 計画の実現に向けて

参考資料

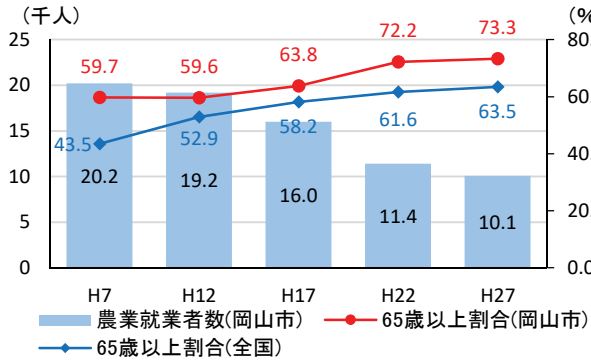
## 4) 農業

### “農業就業者の減少と高齢化、耕作放棄地の増加”

○本市は、総農家戸数が約 10,800 戸で全国第 5 位（平成 27 年）となっており、また、都市ブランドの一つである白桃やマスカットなどの果物が市場から高い評価を得るなど、全国有数の農業都市です。

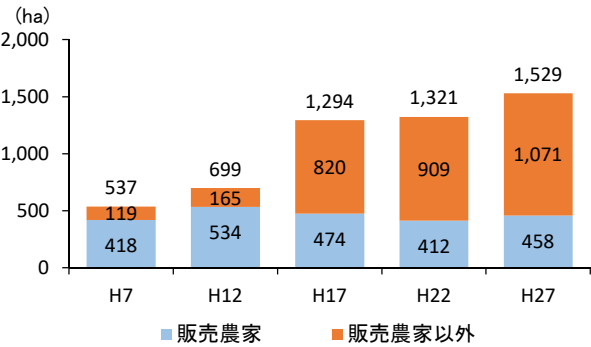
○一方で、農業就業者数は 20 年間で半数に激減しているとともに、全国平均よりも高齢化が進んでおり、耕作放棄地は増加しています。

■ 農業就業人口の推移及び 65 歳以上の割合



資料：農林水産省「農林業センサス」  
※販売農家を対象とするが、岡山市の H7、65 歳以上割合は、総農家を対象としている

■ 耕作放棄地面積の推移



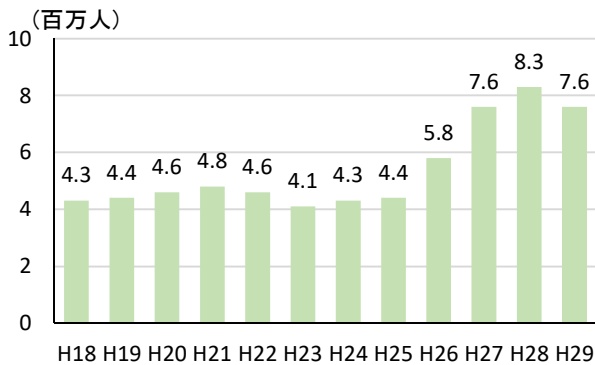
資料：農林水産省「農林業センサス」  
※H7、H12 の販売農家以外には、「土地持ち非農家」が集計されていない

## 5) 観光

### “観光入込客数の著しい増加”

○観光入込客数は、平成 25 年までは横ばいでしたが、訪日外国人観光客の増加もあり、平成 25 年から平成 28 年で、約 2 倍に急増しています。

■ 観光入込客数



資料：岡山市観光統計

岡山城と岡山後楽園



吉備津神社



西大寺会陽（はだかまつり）



(3) 土地利用

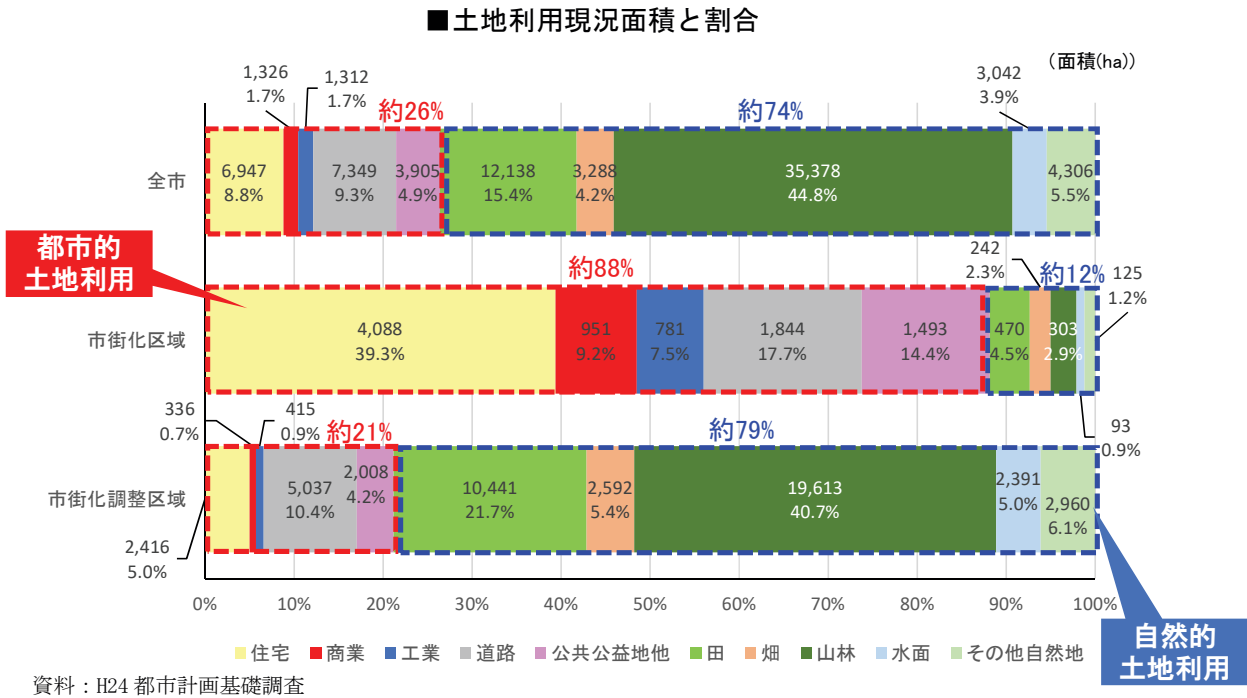
1) 土地利用の現況

“市街化区域内に約1割の農地や山林が残存”

○本市は、市域の約74%を自然的土地利用が占める豊かな自然環境を有する都市です。

○市域の約13%が市街化区域であり、総人口の約81%が居住しています。市街化区域内は約88%が都市的土地利用ですが、約1割は農地や山林などの自然的土地利用です。

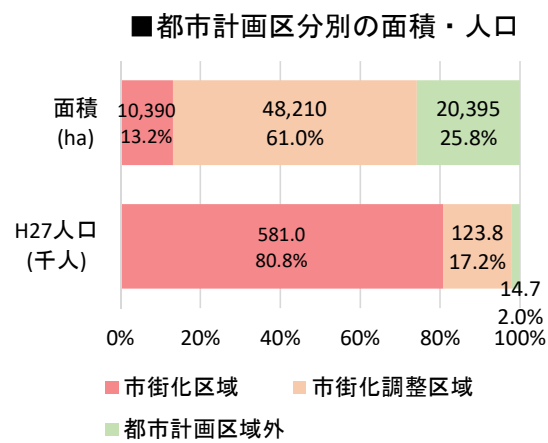
○市街化調整区域は約79%が自然的土地利用ですが、住宅地面積は約2,400haであり、全市の住宅地面積の約35%を占めています。



**■都市計画区域等の面積**

区域	面積 (ha)	割合 (%)
都市計画区域	58,600	74.2
都市計画区域内		
市街化区域	10,390	13.2
市街化調整区域	48,210	61.0
都市計画区域外	20,395	25.8
市域全体	78,995	100.0

資料：都市計画おかやま資料集 (H29.3 末)



資料：総務省「H27 国勢調査」

1 はじめに

2 現状と動向

3 都市づくりの課題

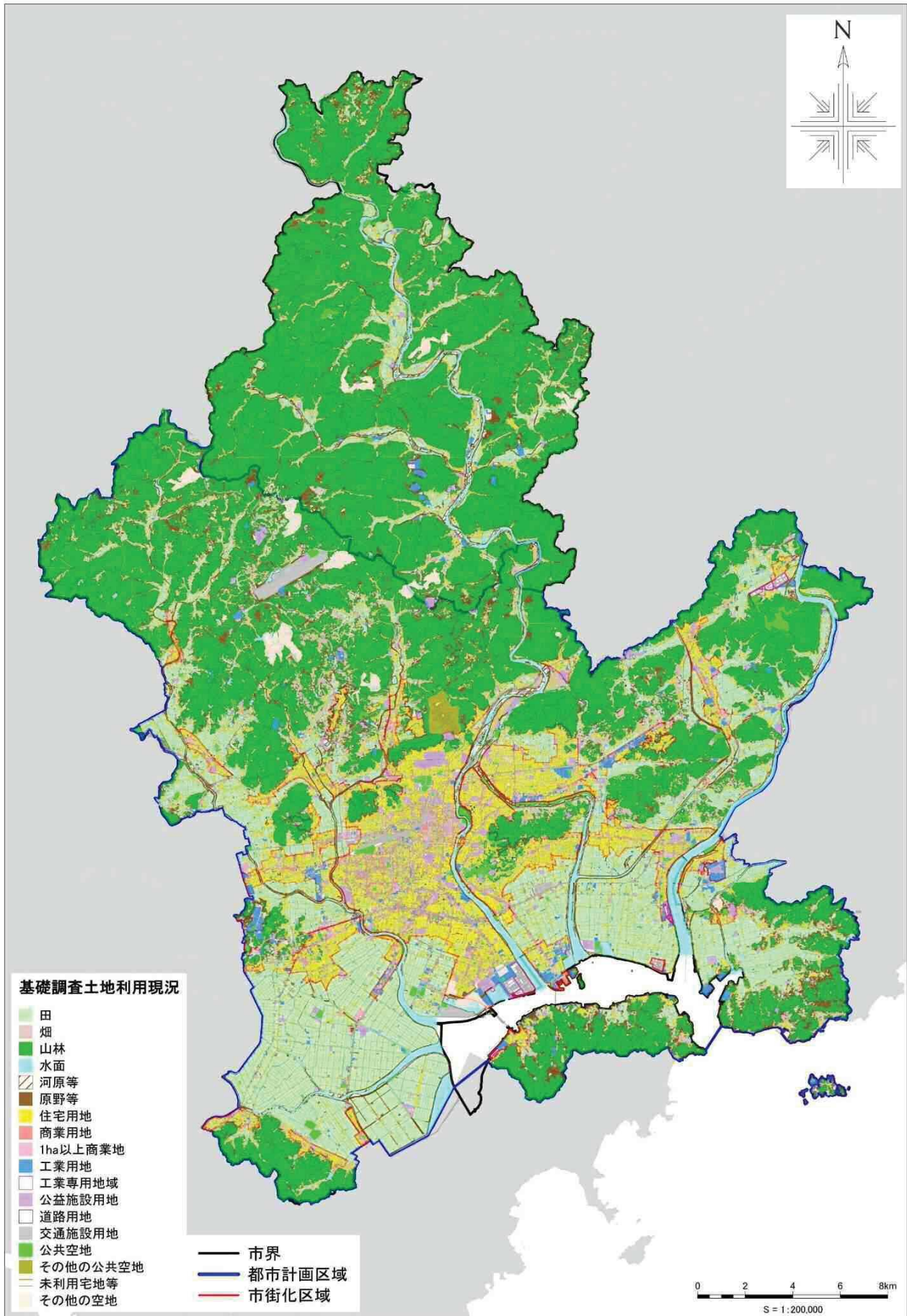
4 都市づくりの基本方針

5 分野別の基本方針

6 計画の実現に向けて

参考資料

■土地利用現況図



資料：H24 都市計画基礎調査

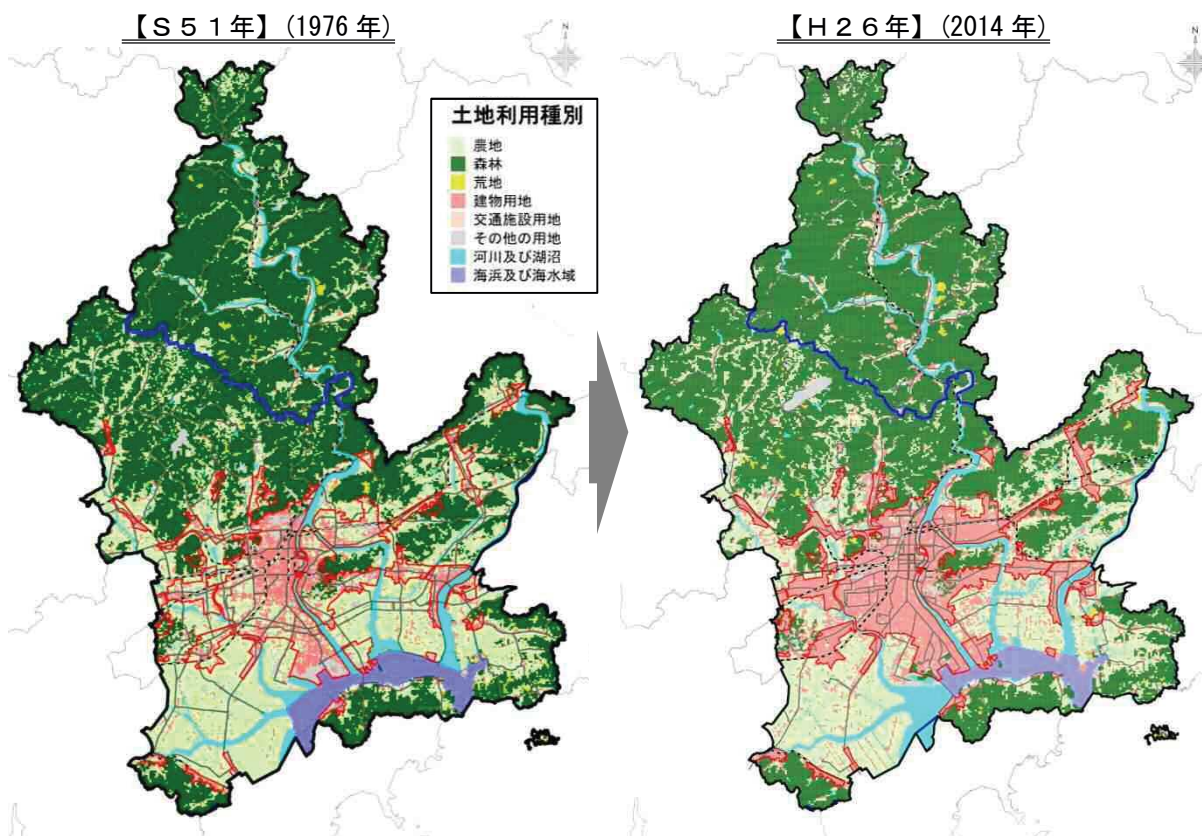
## 2) 土地利用の変化

“市街地の拡大、市街化調整区域でも建物用地が増加し、人口は横ばい”

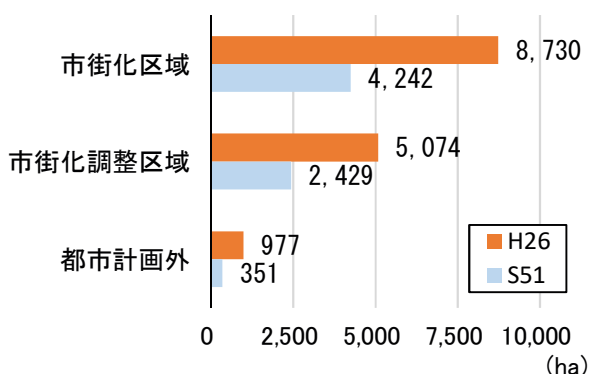
○本市の市街地（建物用地）は、昭和51年(1976年)から、平成26年(2014年)の約40年間で、人口増加にあわせて、平地部を中心に拡大しています。

○約40年間の建物用地面積の増加割合をみると、市街化区域、市街化調整区域ともに、建物用地面積が約2.1倍になり、市街化調整区域全体で見れば、人口はほぼ横ばいで推移しています。

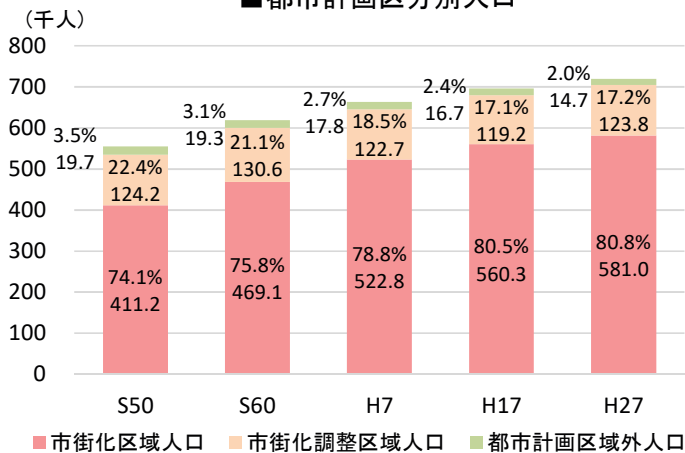
■土地利用の変遷



■建物用地面積の推移



■都市計画区分別人口



資料：国土数値情報土地利用3次メッシュ1/10細区分(100mメッシュ)  
 ※S51の市街化区域は現時点  
 ※100mメッシュ単位で、地図記号や衛星画像から代表となる土地利用種別を判定している  
 ※建物用地率=各区域の建物用地面積/区域面積

資料：総務省「国勢調査」  
 ※現在の市域で集計

1 はじめに

2 現状と動向

3 都市づくりの課題

4 都市づくりの基本方針

5 分野別の基本方針

6 計画の実現に向けて

参考資料

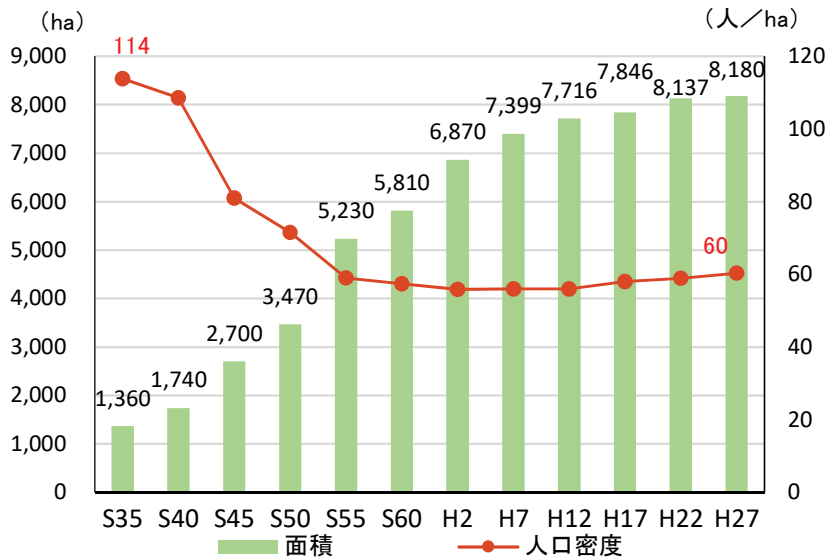
### 3) 人口集中地区

“市街地の拡大と低密度化、政令指定都市と比較して低密度な市街地”

○本市の人口集中地区(DID)は、昭和35年の設定当初から平成27年の55年間で、面積は6.0倍に増加しています。

○人口集中地区(DID)の人口密度は、昭和55年までに大きく減少した後、近年は微増傾向ですが、政令指定都市の中では低位です。

■人口集中地区(DID)の面積と人口密度の推移

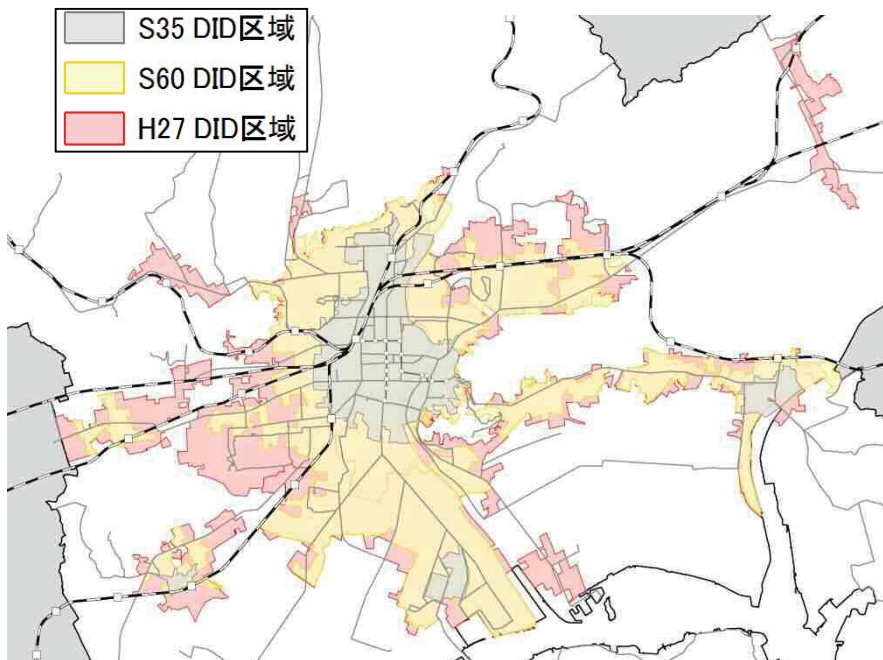


資料：総務省「国勢調査」

※人口集中地区：国勢調査に基づき、人口密度の高い(4,000人/k㎡以上)地域及び人口5,000人以上を有する地域の二つを満たしている市街地のこと

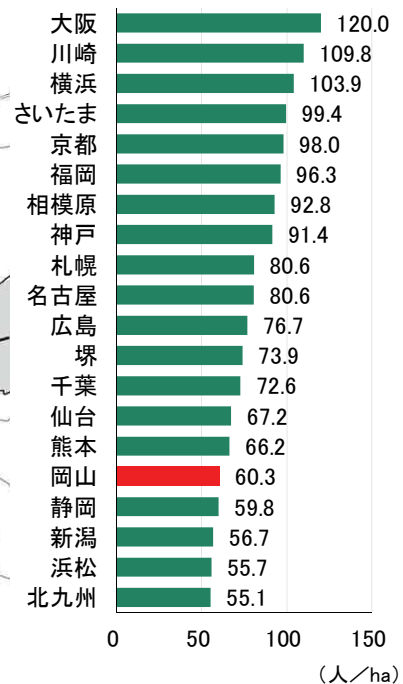
※現在の市域で集計

■人口集中地区の変遷



資料：総務省「国勢調査」

■DID地区の人口密度 (政令指定都市比較)



資料：総務省「H27国勢調査」



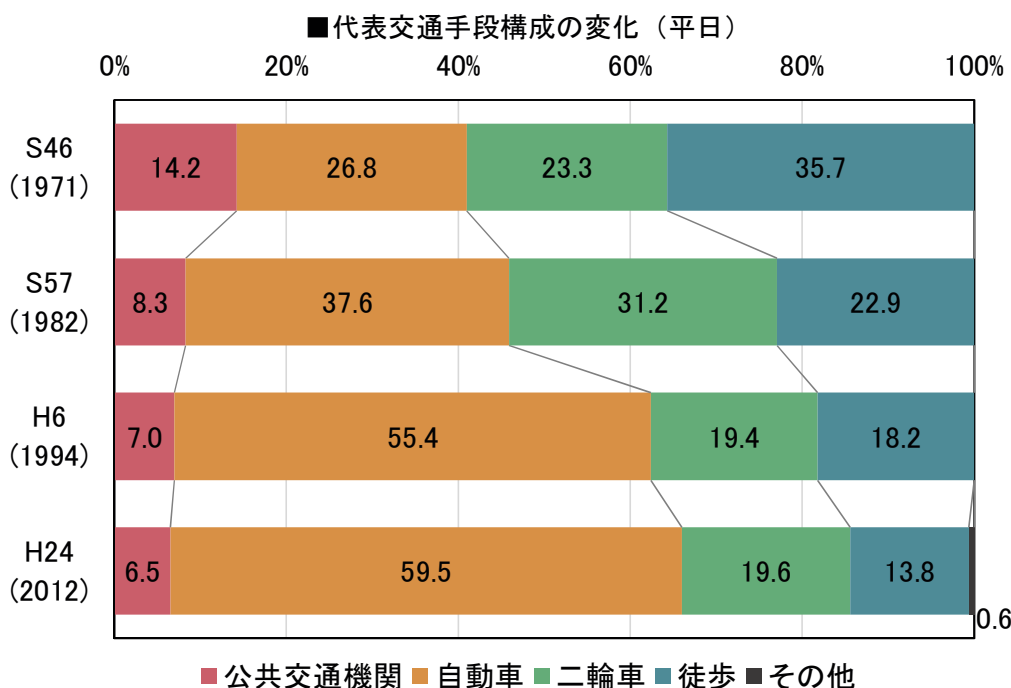
(4) 道路・公共交通

1) 代表交通手段

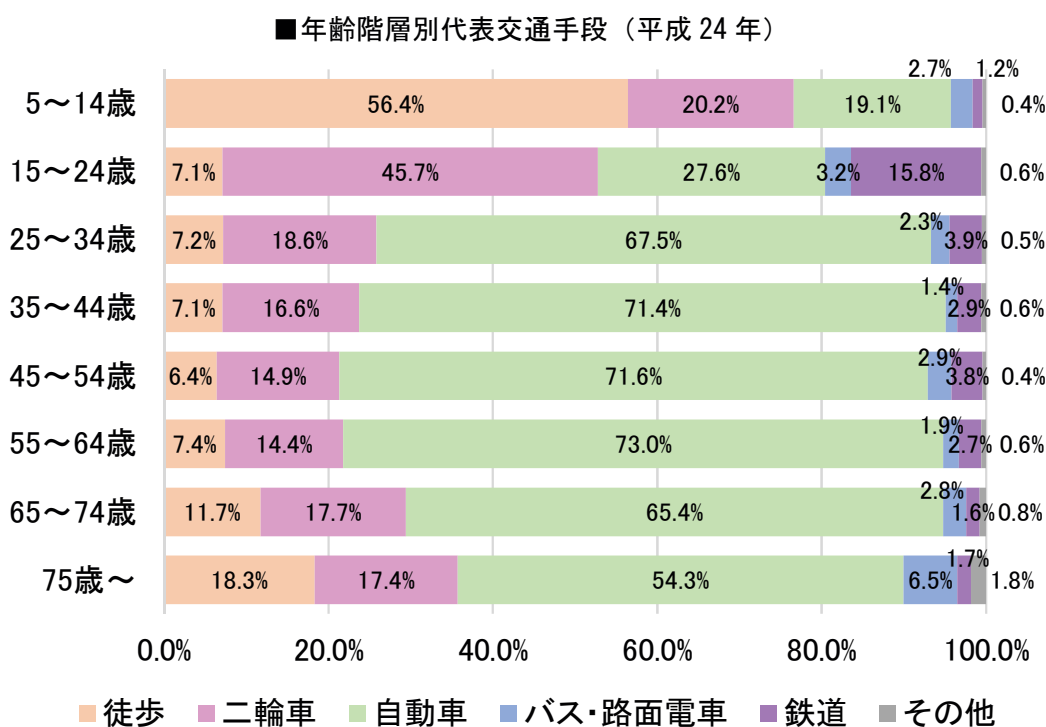
“自動車利用の増加、公共交通・徒歩の減少”

○本市の代表交通手段は、昭和46年から平成24年の約40年間で、自動車利用が約2.2倍に増加している一方、公共交通機関の利用、徒歩は著しく減少しています。

○年齢別にみると、65歳以上の高齢者は、25～64歳に比べて、自動車の分担率が低く、徒歩やバス等の分担率が高くなっています。



資料：S46～H6 岡山県南広域都市圏総合都市交通体系調査、H24 岡山・倉敷・総社交通実態調査（パーソントリップ調査）



資料：H24 岡山・倉敷・総社交通実態調査（パーソントリップ調査）

1 はじめに

2 現状と動向

3 都市づくりの課題

4 都市づくりの基本方針

5 分野別の基本方針

6 計画の実現に向けて

参考資料

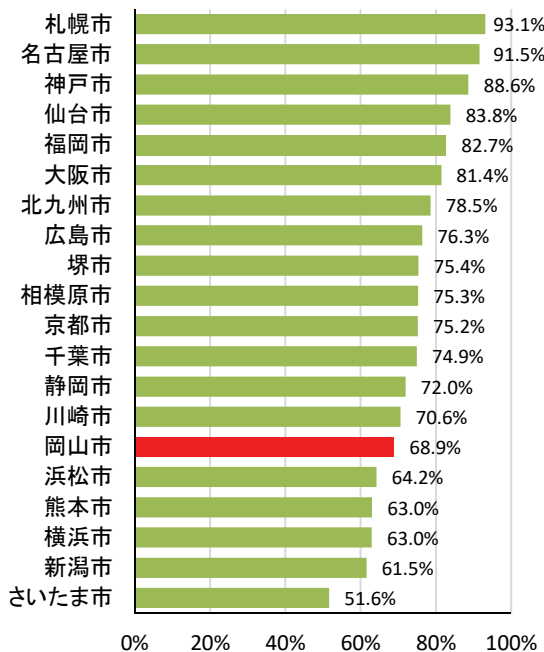
## 2) 道路整備

### “幹線道路で交通渋滞が発生、老朽化した橋梁”

○本市の都市計画道路（約 307km）の整備率は約 69%と、政令指定都市の中では低位で、一般の道路を含む橋梁数は、政令指定都市の中でも突出して多く、建設後 50 年以上の橋梁が約 90%を占めています。

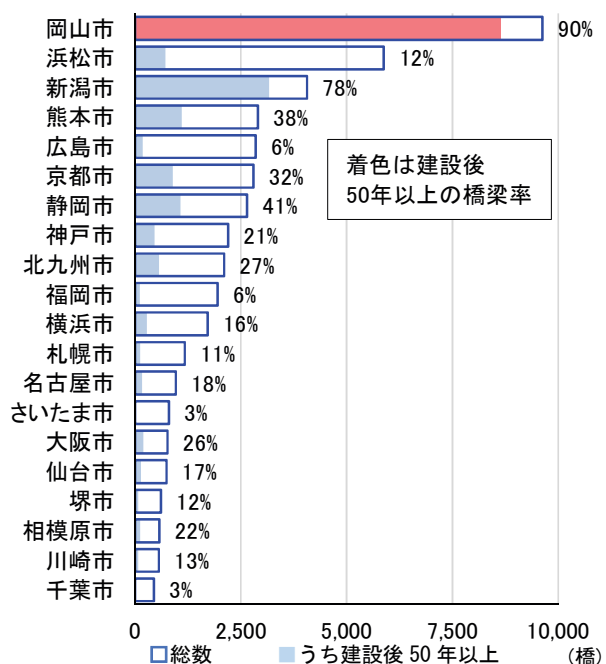
○都心周辺や都心から放射状に広がった幹線道路等に主要渋滞箇所が集中しており、市街地に流入する通過交通の排除や流入交通を適正に分散・誘導する岡山環状道路（外環状線）など幹線道路の整備を進めています。

■都市計画道路整備率(政令指定都市比較)



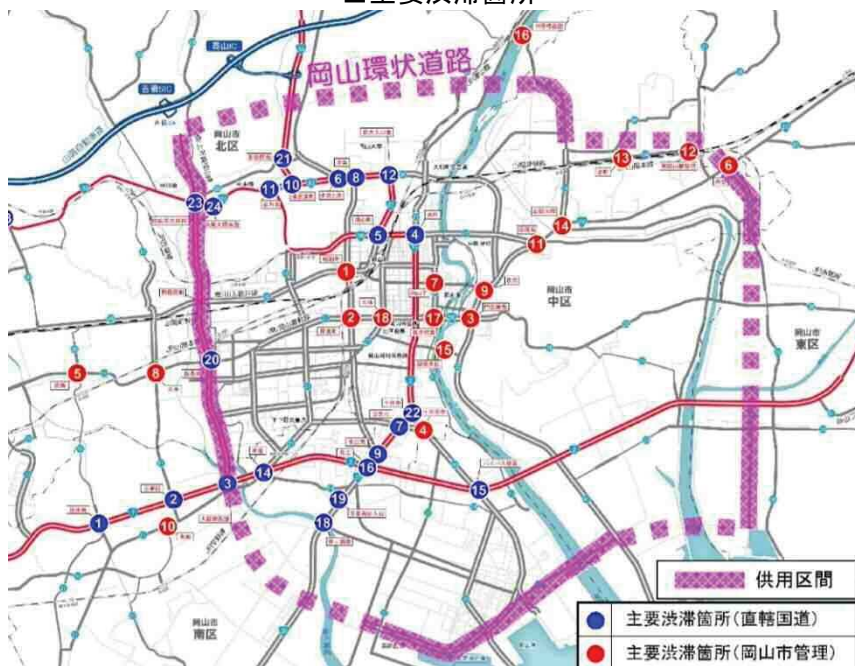
資料：国土交通省「都市計画年報」(H29.3末)

■橋長 2m 以上の橋梁数(政令指定都市比較)



資料：国土交通省資料 (H26.3末)

■主要渋滞箇所



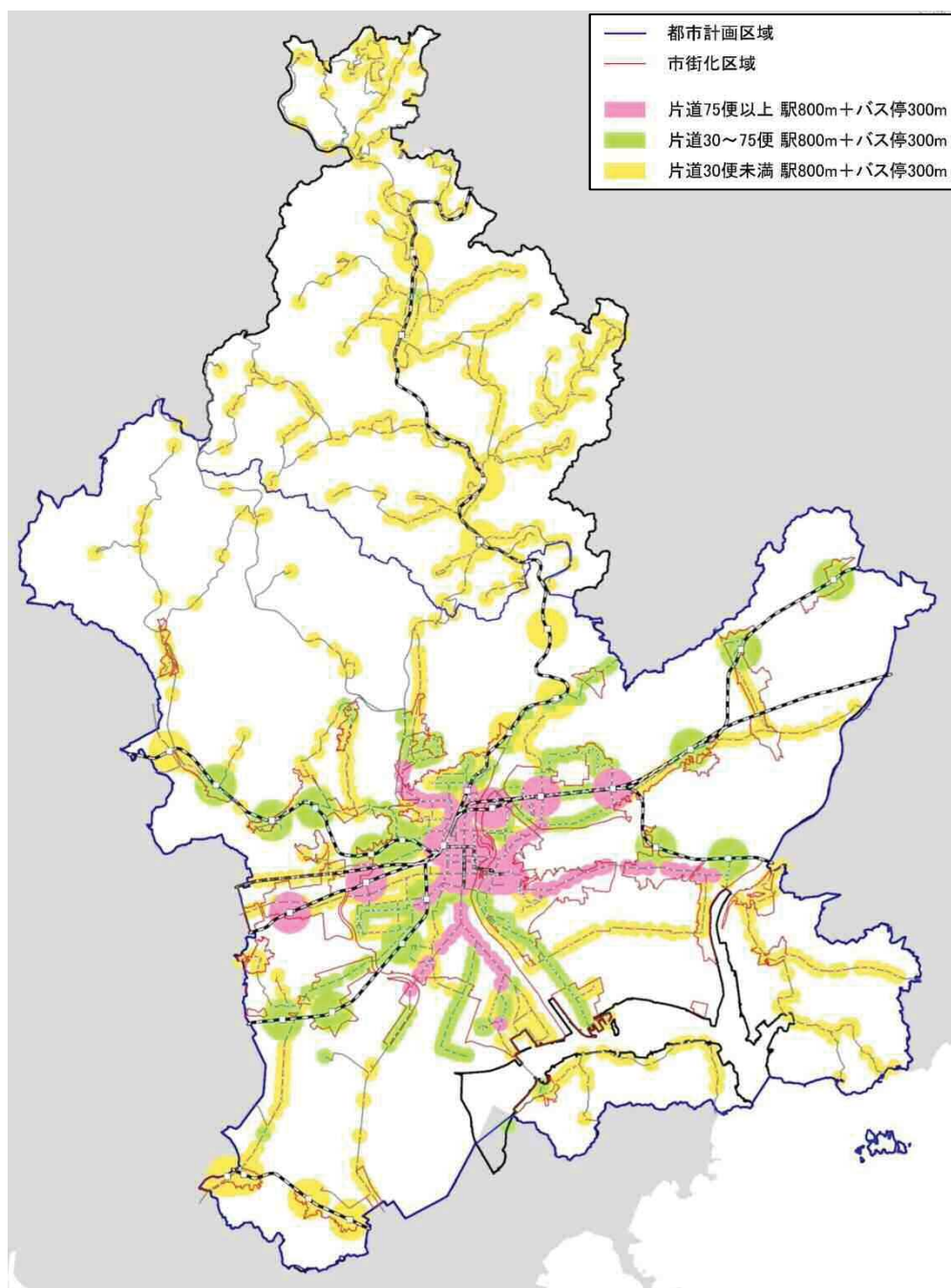
資料：岡山県道路交通対策部会

## 3) 公共交通

## “公共交通の利便性に地域差、鉄道は利用者増加傾向、バスは減少傾向”

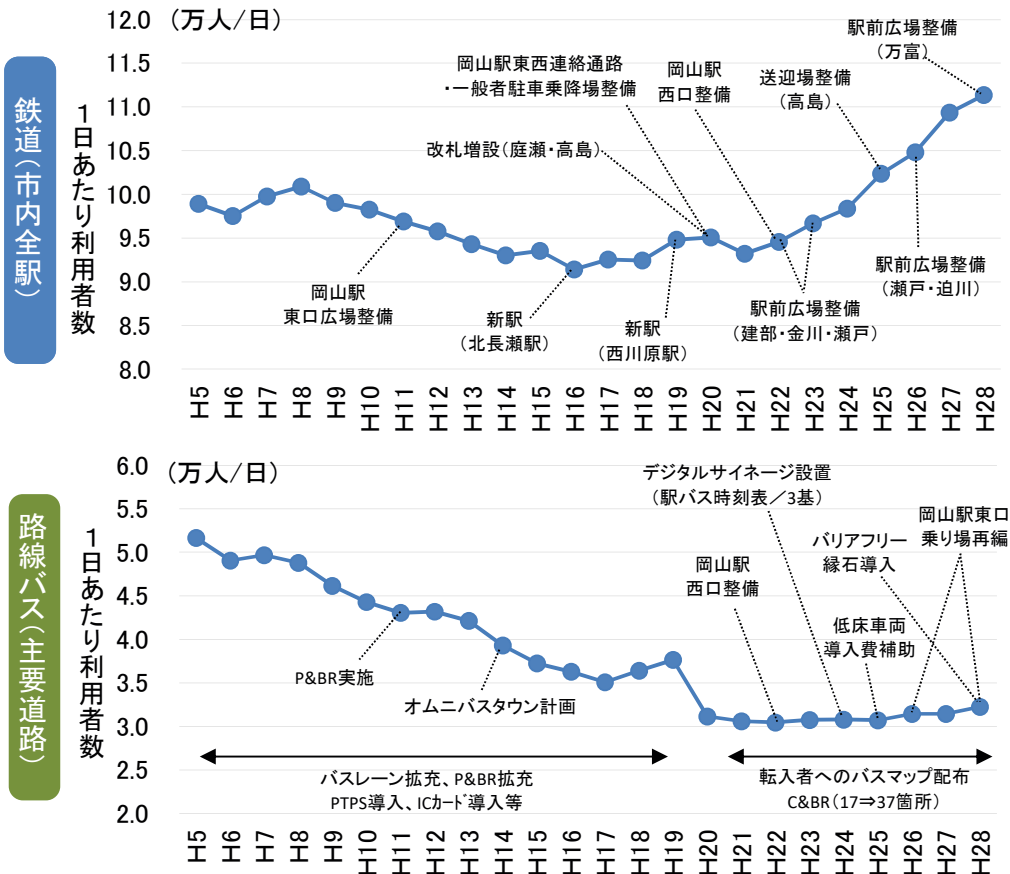
- 本市の公共交通ネットワークは、都心を中心に放射状にカバーされていますが、市街化区域など人口密度が高い地域で運行頻度が高く、周辺部ではサービス水準が低い状況です。
- これまで、公共交通の利用促進施策を進めてきましたが、鉄道利用者は増加傾向である一方、バス利用者は減少が続いており、約20年間で主要なバス路線の利用者数は約4割減少しています。
- 路線バスの運行区間は、平成6年から平成28年の約20年間で約24%減少しており、人口減少が著しい中山間地域などで運行廃止が多く、コミュニティバスなどの生活交通で代替している地区もあります。

■公共交通ネットワーク図（平日）



資料：各社時刻表より作成（H29.6）

## ■鉄道・バスの利用者数と実施施策



資料：JR西日本、各バス事業者提供資料

## ■路線バスの運行区間と便数

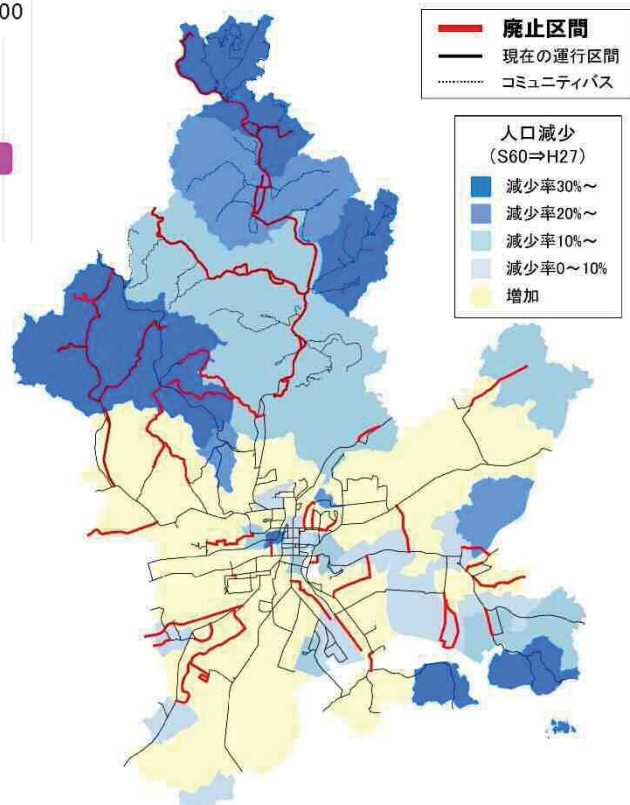


## ■足守地区のコミュニティバス



資料：岡山市調べ

## ■路線バスの廃止区間と人口減少率

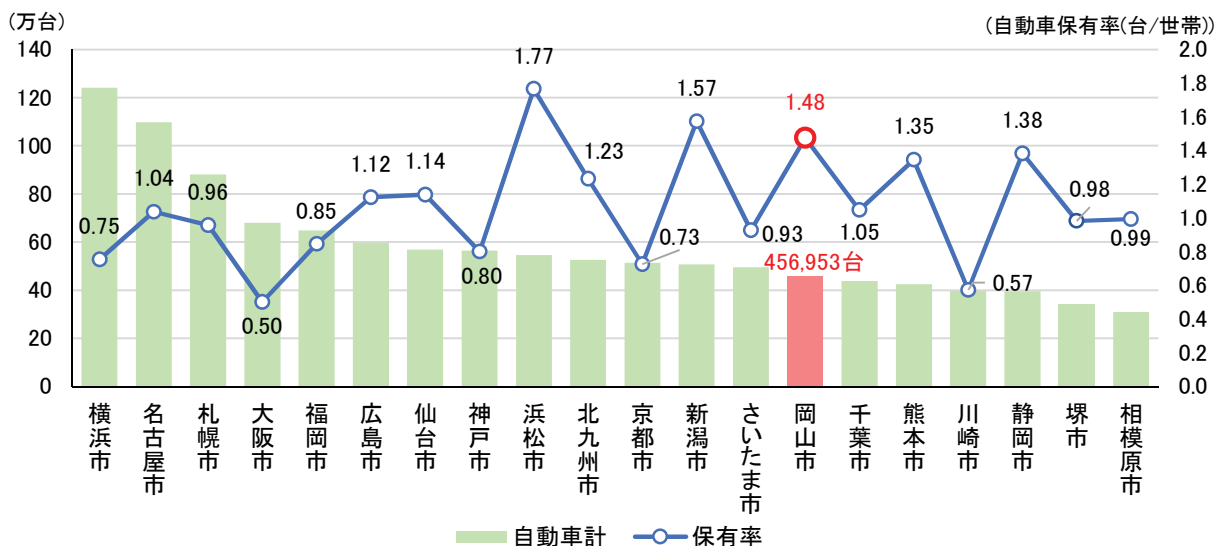


#### 4) 自動車

“自動車保有率は高い”

○本市は、自動車の登録台数が約46万台で、政令指定都市の中では中位ですが、世帯あたりの自動車保有率は、1.48台で政令指定都市の中で上位であり、自動車利用が多い都市です。

■自動車保有率（政令指定都市比較）



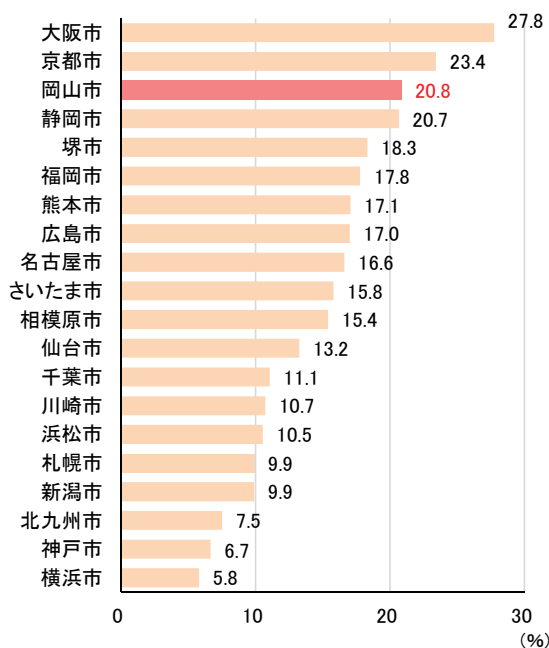
資料：自動車台数は大都市統計協議会「大都市比較統計年表（H27年度末）」、世帯数は総務省「H27 国勢調査」  
 ※自動車台数は、乗用自動車及び軽自動車の合計台数

#### 5) 自転車

“通勤通学時に自転車利用は多い”

○本市は、平坦な市街地特性や温暖な気候により、通勤通学時の交通手段として自転車の利用が多く、政令指定都市の中でも上位であることから、自転車利用の環境整備を進めています。

■自転車利用率（政令指定都市比較）



資料：総務省「H22 国勢調査」 ※15歳以上通勤通学者の自転車利用率

■コミュニティサイクル「ももちゃり」



1 はじめに

2 現状と動向

3 都市づくりの課題

4 都市づくりの基本方針

5 分野別の基本方針

6 計画の実現に向けて

参考資料

## (5) その他の都市施設

### 1) 都市公園

“一人あたり都市公園面積は政令指定都市第2位”

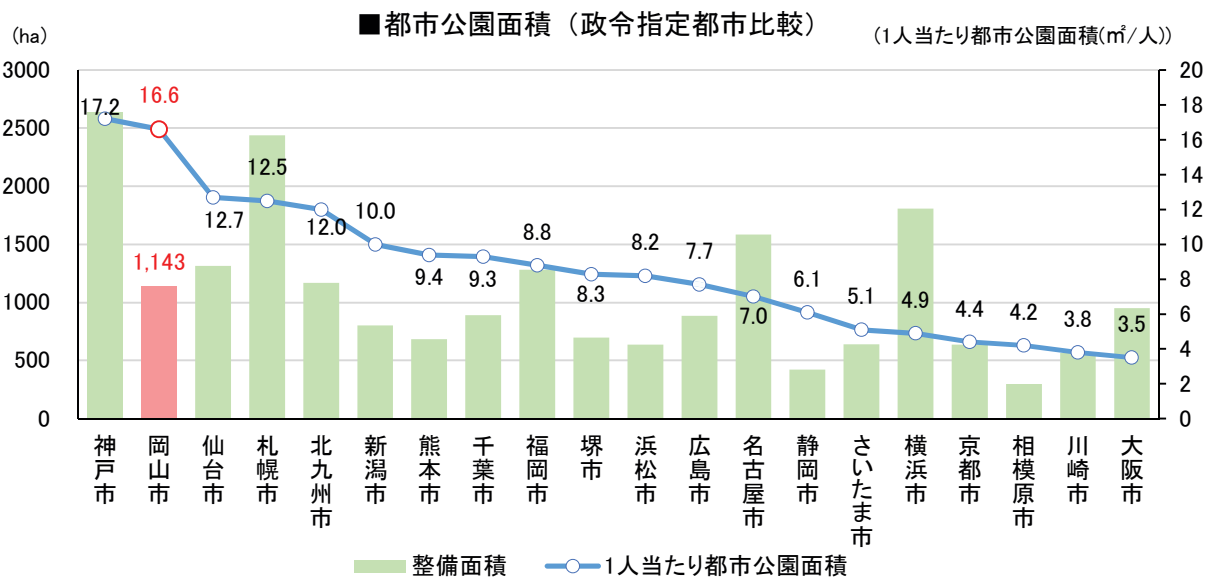
○本市の都市公園は465箇所、約1,143haが整備され、一人あたり公園面積は約16.6㎡で、政令指定都市で第2位です。

○特に街中には、西川緑道公園や岡山後楽園周辺の旭川エリアなど、水と緑の空間が形成されています。

■都市公園の整備状況

種別		箇所数	面積(ha)	水準(㎡/人)	
住区 基幹 公園	街区公園	318	82.12	1.19	
	近隣公園	30	56.16	0.81	
	地区公園	15	217.57	3.15	
都市 基幹 公園	総合公園	5	90.62	1.31	
	運動公園	2	13.14	0.19	
緩衝 緑地 等	特殊公園	風致公園	5	302.02	4.38
		歴史公園	4	25.10	0.36
		植物園	1	11.01	0.16
		墓園	1	30.00	0.43
	緑地	73	250.51	3.63	
	緑道	9	15.91	0.23	
県管理都市公園		2	49.06	0.71	
合計		465	1,143.21	16.57	

資料：岡山市緑の基本計画(H28.12) ※岡山市公園現況集計表(H27.3末)



■岡山後楽園と烏城公園



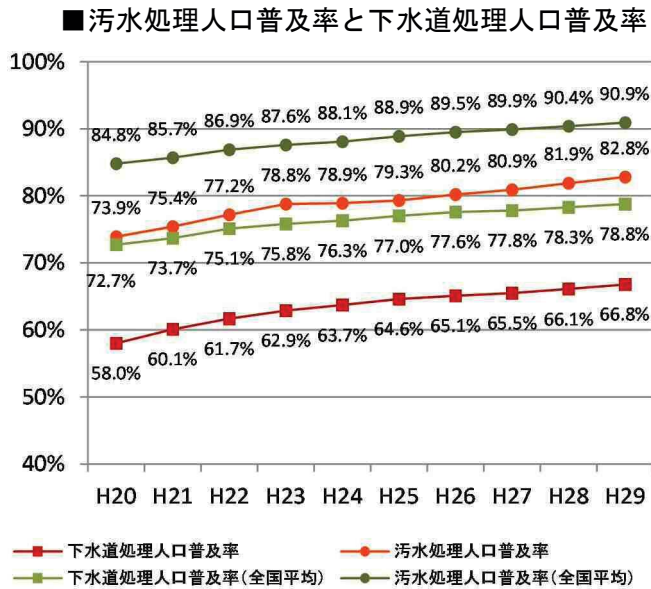
■西川緑道公園



## 2) 下水道

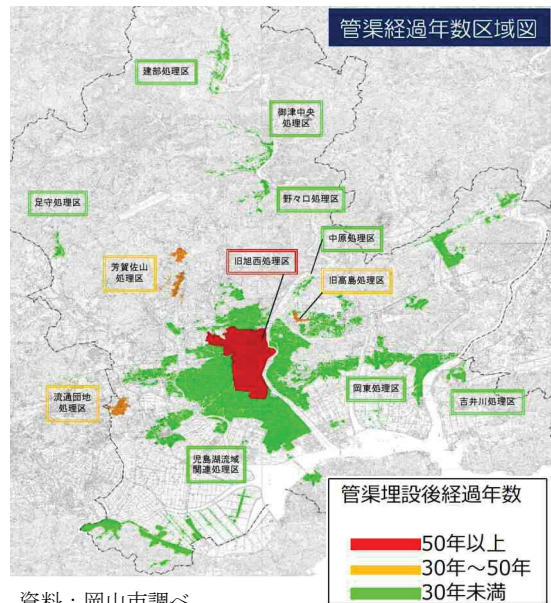
“汚水処理人口普及率は全国平均以下、施設の老朽化が進行。雨水対策済みは一部”

- 本市の汚水処理人口普及率は全国平均を下回っており、市街化区域・人口集中地区内でも未普及地域が残っています。
- 早期に整備した都心では、整備後50年以上を経過した下水管が増加しています。
- 浸水対策施設を整備した雨水対策済み区域は、市街化区域の一部に留まっています。



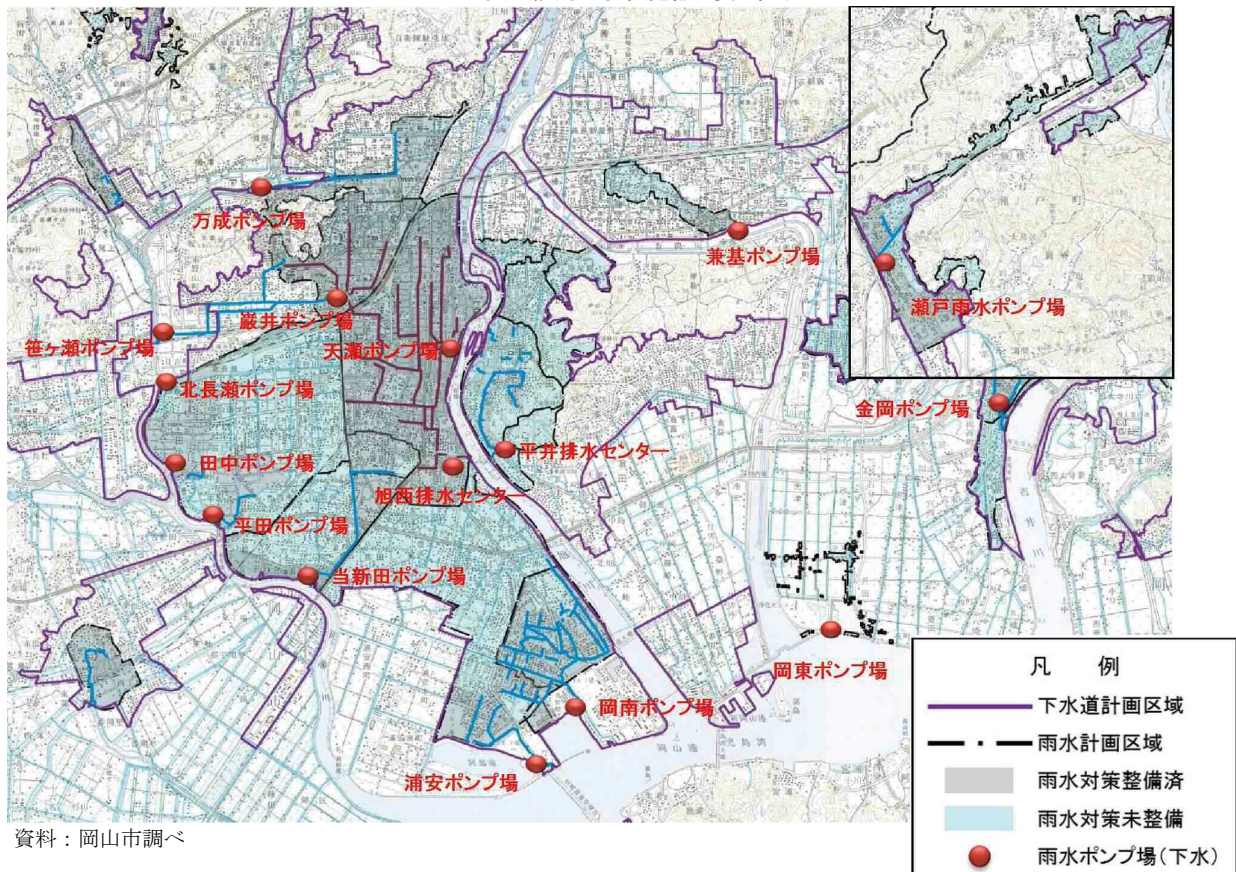
資料：国土交通省「全国汚水処理人口普及率」

■ 下水管渠の経過年数



資料：岡山市調べ

■ 下水道浸水対策施設等位置図



資料：岡山市調べ

1 はじめに

2 現状と動向

3 都市づくりの課題

4 都市づくりの基本方針

5 分野別の基本方針

6 計画の実現に向けて

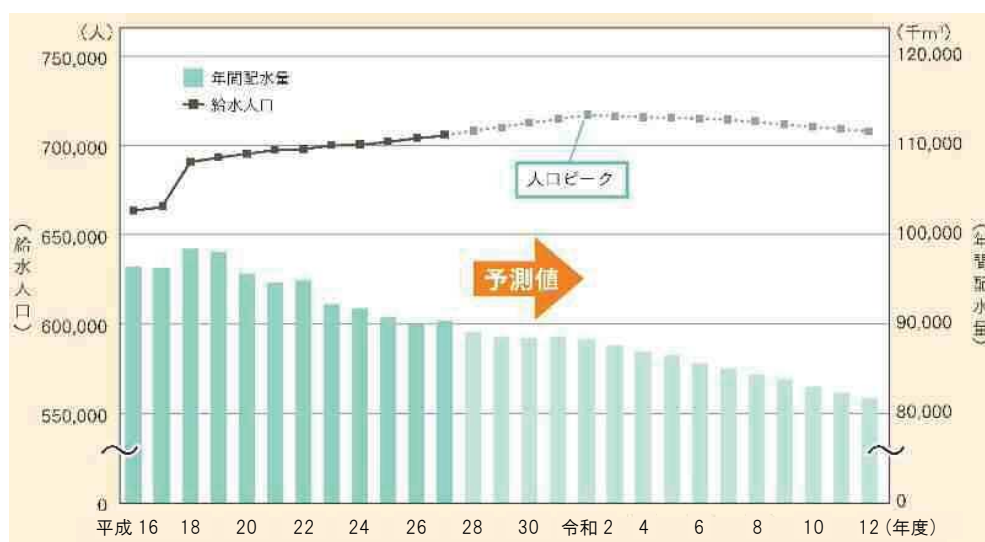
参考資料

### 3) 上水道

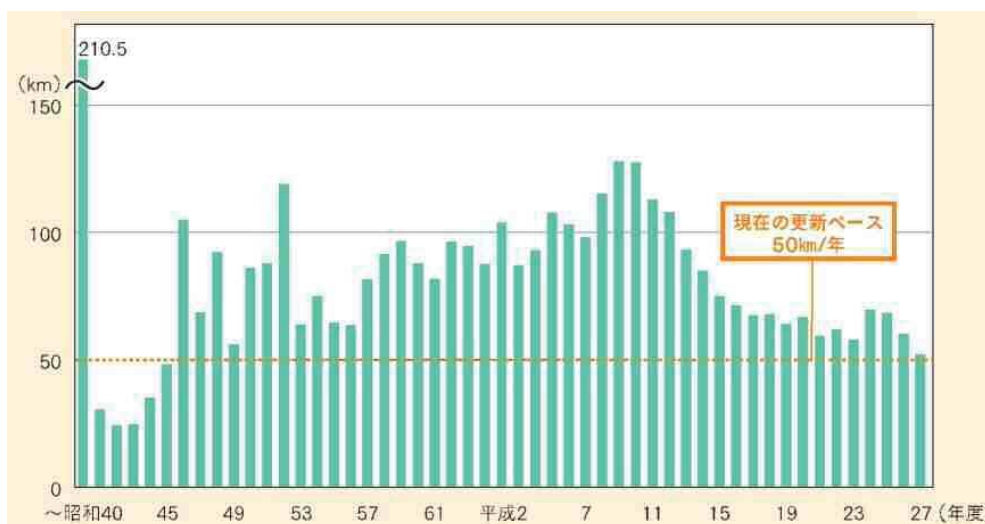
#### “配水量は減少傾向、更新時期を迎える水道施設”

- 本市における一般家庭での生活用水量、業務営業用水量（事務所等）は、節水機器の普及、ライフスタイルの変化などもあり減少傾向で、今後も更に減少が見込まれます。
- 約 750km<sup>2</sup> という政令指定都市で最も広い給水区域内に約 4,300km の配水管が張り巡らされており、高度経済成長期に建設された水道施設が、今後、順次更新時期を迎えます。

■給水人口と年間配水量



■年度別配水管布設延長



資料：岡山市水道事業総合基本計画 アクアプラン 2017